



ご挨拶

高次生命科学専攻 システム機能学分野

井垣達史

平成 25 年 3 月より、システム機能学分野を担当させていただくことになりました。本紙面をお借りして、ご挨拶申し上げます。

私は 2003 年に大阪大学医学系研究科にて学位を取得後、米国 Yale 大学でのポストドクを経て、2007 年に神戸大学医学研究科にて弱小ながら自身の研究室をスタートさせました。神戸での 5 年間は、ラボメンバーたちに支えてもらいながら、なんとか前を向いて走ってきました。そしてこの度、生命科学研究科の一員に加えていただきましたこと、この上なく光栄に存じますとともに、身の引き締まる思いをしております。

大学院時代、三浦正幸先生(現東京大学薬学部教授)のもとでショウジョウバエをモデル生物とした細胞死研究に従事し、以来、ショウジョウバエ遺伝学のパワーと美しさに魅了されて今日に至っております。当時、三浦先生のもとでショウジョウバエで唯一の TNF 相同分子を同定し、好きな山の名前をとって Eiger と名付けました。Eiger は細胞死誘導因子であることが分かりましたが、苦勞して作製した Eiger ホモ変異ショウジョウバエがまったくの no phenotype で、愕然としました。結局、Eiger の生体内での役割を捉えることができないまま Yale 大学 Tian Xu 研究室に留学したのですが、そのアメリカの地で、ついに Eiger の生理機能を突き止めることができました。すなわち、Eiger は正常状態では“潜伏”しているが、生体組織中に異常な細胞(腫瘍原性の細胞など)が出現すると活性化され、異常細胞に細胞死を誘導して積極的に排除することが分かりました。この異常細胞排除現象は、後に「細胞競合」と呼ばれる機構により引き起こされることが分かり、現在の私たちの研究につながっています。

これまで研究をしながら様々な土地で生活できたのは、自分の中でとても大きなことでした。アメリカでの 4 年半の研究生活は毎日が夢のようでしたし、日本各地で過ごしたそれぞれの研究生活の場も、どこもふるさとのような深い思い出があります。そしてついに、憧れの京都の地で研究させていただけることになりました。毎朝、鴨川の流れとその上流の山々を眺めながら歩いていると、今日も研究ができることへの感謝の気持ちとともに、自然が与えてくれる何とも言えない安心感というか、勇気が湧いてくる気がします。これからラボメンバーたちとともに日々サイエンスを楽しみながら、懐深い山々を目指して一歩ずつ、勇気を持って挑戦し続けていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。